

年 組 名前：

甲府・森田屋商店 防災用に需要

寝具販売の森田屋商店「ふとんのもりたや」(甲府市上石田4丁目、清水三千雄社長)が、不要になった羽毛布団を寝袋に加工するサービスを手がけている。今年1月の能登半島地震以降、防災備蓄品として寝袋へのリメイクを希望する人が増えているという。同社は「羽毛は貴重な天然資源。再利用しつつ防災に役立ててほしい」としている。

〈渡辺真紗美〉

同社では顧客から買い替えなどで不要になった羽毛布団の引き取り希望があった際、羽毛を使った寝袋へのリメイクを提案している。長年使用していなかった羽毛布団の場合は、内部がかびている場合もあるため、布団生地をほぐして、中のダウンを洗浄してから寝袋に加工。冬用の羽毛布団1枚から寝袋が二つ作れるという。

羽毛布団を寝袋に再生

寝袋一つにつき、ダウンフェザーを約360羽使用。寝袋の色はグレーとブルーの2色で、同色の収納袋が付く。寝袋へのリメイクは一つ1万9800円、二つ目は1万6千円(いずれも税別)。

清水社長は「能登半島地震後、防災用として寝袋に加工したいという注文が増えている」と話す。注文者の中には、急な車中泊に備えて、車に常備したいと話する人もいるという。

清水社長は「不要な羽毛布団を防災などに有効活用してほしい」と話している。

(2024年3月5日付 山梨日日新聞7面)

問1 甲府市の寝具販売店は、不要になった羽毛布団を寝袋に加工するサービスをしています。

最近、リメイクを希望する人が増えている理由を教えてください。

問2 次の文章の①から⑥に当てはまる言葉や数字を、教えてください。

『リメイク後の寝袋は、①サイズの②型で、つなぎ目が外れる③ファスナーとなっていて、内側と外側の両方から開けられる。広げると幅④センチ、長さ⑤センチの⑥としても使える。』

①..... ②..... ③..... ④.....

⑤..... ⑥.....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.